

2015 年 I S A F 年次会議 レポ—ト

I S A F セーリング ワールドカップ 大幅見直し！！

於：サンヤ 中国 11／6－14．2015

報告 大谷 たかを（ISAF イベント委員、カウンスルメンバー）

I S A F が全力を傾けて進めていた「I S A F セーリングワールドカップ」は昨年にやっと開催にこぎつけたシリーズの総仕上げとなるグランドファイナル戦（アブダビ）が大成功と思いきや、今年度はシリーズの後半2戦（チンタオ、アブダビ）でのエントリーの減少および参加選手のクオリティーの低下、特にアブダビ戦では49er FX とナクラ17のエントリーはゼロという状態であった。アブダビ戦不人気の理由は多くのクラスの世界選手権とのスケジュールの近過ぎや艇輸送のやりくり（チームには何隻ものレース艇を所有し世界中の転戦先に送るという過大な負担）が問題であった。

本来なら「チャンピオン オブ チャンピオン」という世界最高のセーラーを決めるクライマックス大会との位置づけを目指していたI S A F は各クラス協会にワールドカップ予定の前後一週間以内のオリンピッククラス世界選手権の開催は認めないという作戦に出たが各クラスから猛反対となり、今会議での大幅見直しとなった。

オリンピックイヤーには開催しない、年3戦に絞るべき、開催時期を10月－3月に限定・・・等の意見も出ているが2020 Tokyoに向けての日本開催への期待は非常に大きく、J S A F としては2017 - 2020年の開催に向けてその可能性を早急に決定し準備にかかる必要がある。これはかねてからJ S A F 進めていた絶対に失敗することができない2020年の本番に向かっての企画力／大会運営力／レース運営力を世界最高レベルに高める手段として、各オリンピック種目の世界選手権を開催するという作戦が既にスタートしており、2021年49er およびFX、RS-Xのワールド招致にすでに成功、2019年には470、レーザー（この大会は五輪国枠選考がかかる）、可能ならばフィン、ナクラ17の世界選手権を五輪直前に計画している。なお、2018年はデンマークで全オリンピッククラスの世界選手権を同時開催となるI S A F セーリング世界選手権で前回のサンタンデル大会同様半数近い国枠（%は未定）がかけられる。

ワールドカップの日本開催が決定となると2018年、2019年に開催が義務付けられているリハーサル大会も含めてのビッグイベントが続き、日本のセーリング界の総力をまとめる必要性がせまられている。

とにかく、世界の目は既に日本に向いており、すでに練習環境等の調査に来日した国もある。リオ大会が終わった時点で世界中のセーラー、コーチ、各国協会の目は日本に大きく注がれることとなる。

今回の会議での主なトピックは

1. I S A F 名称変更

「ワールドセーリング」に変更。他の競技団体にならって中身の分かりやすい名前に変更。

2. 2016 リオ大会のアップデート

8月のプレオリンピックは問題なく終わったが懸念されているグアナバラ湾の汚染は問題が多くみられ、汚染状態によってはコースを湾外に変更する等の対策をとっているが、3月に完成するという污水处理場の完成が待たれている。

3. 2020東京大会

大会会場が江の島に変更され着々と準備が進められているとのテクニカルデレゲートのアリスターフォックスにより報告がされた。

4. 見てわかるセーリングスポーツの必要性はIOCからの要求は非常に大きく、ユースオリンピックでのカイト採用、2020年に向けてナクラ17のfoil化への要求等ドラマチックなメダルレースを含めて大きな改革が求められている。一方レーザーを始めとする普及が大切なクラスには更なるオリンピック予選への参加が重要となっている。

5. コミッティー(委員会)の位置づけ見直し

重複を避けスムーズな流れを作るためコミッティー、サブコミッティーの分類をクリアにした。

6. ユースワールド／ユースオリンピック

新興国支援のプログラムが成果を表し新しい国のエントリーが増えてきている。

＊ユースワールド

2015年(12月末) マレーシア大会 29erが男女別の種目

2016年(12月末) オマーン カタマランはナクラ15(男女混合)

2017年(7月) イスラエル

2018年(7月) アメリカ・テキサス州 コープスクリスティ

＊ユースオリンピック

2018年 アルゼンチン・ブエノスアイレス

種目はウインド、カイト、カタマラン(混合) 選手総数は100名(男女半数)

7. DSC(障がい者セーリング委員会)の新しい名前はワールドパラセーリング委員会。アトランタ大会から選手として活躍してきた須藤氏がISAFから推薦されて新たに参画。2020年のパラリンピック種目から外れたセーリングをいかに復活させるかに大きな力がそそがれている。ISAFからは各国に障がい者セーリング連盟との合併を強く進めるようにアドバイスがあり、日本もブラインドまで含めた全ての障がい者セーリング関係団体がJSAFのもとに活発に活動し、2020年に世界に発信できるエキジビションレースを出来るようにしてもらいたい。2019年広島にての世界選手権の可能性が出てきている。

8. <ロレックスワールドセーラーオブザイヤー>

男子は負けなしで連勝を続けるニュージーランド49erピーターバーリング、ブレアトワーク組。アメリカスカップやモスでも活躍。女子は2児のママさんになってもカタマランのプロシリーズ(エキストリーム40)で大活躍するイングリッド2連続金メダリストのサラ・エイトン(GBR)。写真: 巨大なスクリーンに映し出されるサラ・エイトン。



セーラーの殿堂入りは、デニスコナー、アレサンドラセンシニ、ハロルドバンダーベルト、ピーターブレイク卿、バレンティンマンキン、バディーメルジェス、トーベングラエル。

9. ルール変更

来年末のルール改訂を控えて多量のルール変更提案が出され、レーシングルールズ委員会とイクイップメント委員会には大きなプレッシャーがかかった。RRS 関連ではフェアプレー精神の重要性を更に高めるルールとなる。施行は2017年1月(一部は2016年1月から)。

10. 東京オリンピック準備委員会からは入部、大庭氏が参加、2020年に向けての準備状況の説明に基づき2017年からのワールドカップを含むISAFからのアドバイスを受けた。アジアセーリング連盟、ルール委員会他委員会 および大型艇関係詳細に関しては 荒川、柴沼、田中、斉藤愛子(今回からISAFの推薦を受けてコーチズコミッション委員)、小林、角、鈴木委員および植松副会長、障がい者セーリング関係は須藤各委員からのレポートを参照

11. インターナショナルジャッジに再任：田中正昭、新任：富松潔

12. 今後の会議予定

2016年次会議はアブダビに予定されていたが急きょキャンセル、ヨーロッパ地域で11月検討中。ミッドイヤーは5月 ミラノ。

今回の会議は中国の最南に位置する 海南島 サンヤ(ボルボオーシャンレースのストップオーバー港として急遽世界に知られるようになった)で開催された。ここはベトナムの北端よりも緯度が低く中国のセーリングチームの基地としても知られている。北京では雪が降っているというのに連日30度近くアジアのハワイと言うふれこみで、今回会議に使われたホテルは中で迷子になるほどの大きさのリゾートホテルでその会議室のぜいたくさは写真を見ていただきたい。オリンピック開催国はISAF年次会議するのが通例で、東京は何年にやるのかという質問をたくさん受けた。



カウンスルの会議には想像を絶するほどの天井高さを持つ贅を尽くした会議室が使われたが、英/スペイン2か国語同時通訳はコストが掛かり過ぎるということで今回は実施されなかった。